

論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 927 号	氏名	川元 康嗣
学位審査委員		主査	泉川 公一
		副査	迎 寛
		副査	西田 教行
<p>論文審査の結果の要旨</p> <p>1 研究目的の評価 本研究は重症肺炎の原因菌である <i>Legionella pneumophila</i> が、ヒトの気道上皮細胞に感染し増殖することを明らかにした上で、気道上皮細胞の生体防御としての役割と TNF-α 産生の関わりを検討し、本症の病態解明を目的としており、目的は十分に妥当である。</p> <p>2 研究手法に関する評価 臨床分離 <i>L. pneumophila</i> 株、気道上皮細胞株 NCI-H292、単球系細胞株 THP-1 を使用し、これらの細胞に対するレジオネラの感染性、細胞障害性、細胞内外における菌数を測定している。また、菌数の増加に TNF-α、あるいは抗 TNF-α 抗体が及ぼす影響を検討し、さらに、これらの細胞のアポトーシスの有無についても、活性化 caspase 3/7 の染色で評価しており、研究手法も妥当である。</p> <p>3 解析・考察の評価 <i>L. pneumophila</i> が、気道上皮細胞株 NCI-H292 に感染し、本菌が増加することが明らかにされた。また、TNF-α が気道上皮細胞のアポトーシスを誘導し本菌の増加を抑制し、反対に抗 TNF-α 中和抗体が菌数の低下を抑制することを新たに見いだした。単球系の細胞でも同様の現象が確認された。レジオネラ肺炎の病態における、気道上皮細胞の役割と TNF-α、アポトーシスの関係性について新たな知見を見いだした。</p> <p>以上のように本論文はレジオネラ肺炎の病態解析に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士（医学）の学位に値するものと判断した。</p>			